

## 新年会開催



令和5年新年会を2月8日松江エクセル東急ホテルで開催しました。新年会は、80名の参加者がありました。

井上浩代表理事会長は、開会挨拶の中で、IT業態が、かつてオフコン販売とシステム開発から、クラウドツールの利用による開発に変化してきているように、DX時代を迎え、ウォーターフォール型開発だけでなく、アジャイル型開発が増



ってきていると指摘し、協会が行う人材育成でも対応していきたいので、様々なご意見をお聞きしたいと述べました。

続いて、来賓としてご出席を頂いた田中明美島根県農水商工委員会委員長及び田中麻里島根県商工労働部長から挨拶を頂きました。田中部長は、あいさつの中で、県としては、県内中小企業のDX化を強化していきたいと考えているので、協会傘下の企業の協力を是非お願いしたいと述べられました。



新年講演会は、長年島根県商工労働部で情報産業を担当し、昨年退職、起業した杉原健司氏に、「IT産業振興に賭けた県職員から、新たな世界への挑戦」と題して行って頂きました。杉原氏は、将来を期待されていた商工労働部三羽カラスの一人でした。熱情あふれる人柄で企業に寄り添いともに動く県職員で知られていましたが、杉原氏はIT産業行政に関わる中で、「誰でも何度もチャレンジできること」、そんな地域にしたいとの思いが強まり退職に至ったそうです。今では自らが代表する会社やITコンサルティング会社を立ち上げられました。

今後IT業界と関わりがあるばかりか、連携が深まるのではないかと予感しました。

杉原氏講演の後、安達昌明島根県情報産業振興室長から文系学生のITブートキャンプの成果発表会の開催案内がありました。

講演会終了後は交流会を開催しました。コロナ禍で中止を余儀なくされていた交流会でしたが、コロナウイルスの弱毒化傾向が顕著になってきたため、3年ぶりに開催することができました。北村功代表理事副会長の開宴挨拶の後、広島から来賓として臨席を頂いた、川崎信治総務省中国総合通信局情報通信部長、下出政樹経済産業省中国経済産業局地域経済

部長にご挨拶を頂きました。能海広明松江市副市長に乾杯のご発声を頂き開宴しました。



交流会の中では、新たに協会会員となった2社から、自己紹介をして頂きました。コロナ対策で制約が多い中ではありましたが、節度を保ちながらも、暖かく楽しい一時となりました。

福光靖代表理事副会長の締めの挨拶が終わると、杉原健司氏と北村功代表理事副会長が飛び入り登壇。3人が音頭取りとなり、会場の全員で「ダーッ」と声を一つにして、熱く締めを飾りました。

